

石橋地区（玉名市）

先人たちが築いたみかんの産地のレガシーを未来へつなぐ



ビジョンの概要

地区の課題

- ・ 担い手の高齢化と減少
- ・ 急傾斜地の作業道整備
- ・ 石垣や水路が損壊し、集落への土砂流入の危険
- ・ イノシシによるみかんの食害
- ・ 耕作放棄地の顕在化

ビジョン

地区の目指す姿

（１）石垣の樹園地・水路の維持及び災害防止対策の実施

- ① 崩壊した石垣や水路を補修する。
- ② 不足する土量を補うための客土を投入する。
- ③ 侵入防止柵設置等によるイノシシ対策。
- ④ 作業道の整備

（２）地区内の担い手農家の所得向上による経営安定

- ① 優良品種への更新、シートマルチ栽培棟による高品質果実生産体制の構築（果樹経営支援対策事業等の活用）。
- ② 雇用等による収穫等の労働力確保。



（３）農業後継者の育成及び確保

- ① 地区内の担い手農家による後継者及び定年帰農の育成。
- ② 地区内外からの新規就農者の確保。

成果目標

- ・ 石垣や水路等の補修、作業道の整備等を行い、樹園地の排水性が向上し、高品質果実生産が可能になる。
- ・ 高品質果実への樹木の更新を進める
- ・ シートマルチ栽培などの生産技術を10ha以上導入する。

ビジョン策定のプロセス

日本有数のみかん産地だが放棄地増

ニーズの把握と取り組みの優先順位

石垣や水路の補修・維持のためには作業道の整備を優先する必要があることを共有した。中山間農業モデル地区との意見交換、視察研修で情報収集。

優先順位の調整

石垣や水路の補修希望箇所が多く、調整に苦労した。補修を諦めて「参加しない」という声もあったが、会合を重ねて優先順位を決めた。

合意形成

石垣や水路の補修は切羽詰まった状況が近づいているが、個人の力では困難。業者に頼むと費用負担も大きく、地区全体で協力して進めていくしかないという合意が得られた。

具体的取り組み

(1) 石垣の樹園地・水路の維持及び災害防止対策の実施

- 崩壊した石垣や水路を補修する
→壊れた石積の補修工事は128㎡で完工した。排水路の補修工事も72mで施工した。
- 不足する土量を補うための客土を行う
→まだ実施できていない。
- 侵入防止柵設置等によるイノシシ対策の実施
→新たにワイヤーメッシュを設置した。
- 作業道の整備
→工作道路82.4mのコンクリート舗装が完成した。



(2) 地区の担い手農家の所得向による経営安定

- 優良品種への更新、シートマルチ栽培棟による高品質果樹生産体制の構築
→優良品種への更新は各戸で計3haで実施した。主力の温州みかんでは、腐れにくく収穫が安定しているものに改植。JAの指導でデコポンなどの高収益品種の栽培も進めている。晩柑を導入した農家もいるが、寒さに弱いため適地かどうか見極める必要がある。
シートマルチ栽培は目標10haに対して8haで導入した。

(3) 農業後継者の育成及び確保

- 地区内の担い手農家による後継者及び定年帰農の育成
→それなりに後継者はいるが、収穫期が秋から初冬に集中するため、求人に苦労している。JAも含めて地域全体で労働力確保に努める必要がある。
将来的にはロボットの導入も考えたい。
- 地区内外からの新規就農者の確保
→そのためには、ブランド力を生かし、価格のアップを目指す必要がある。

成果

成果目標

- ・排水路や石積の補修、耕作道路の整備
- ・シートマルチ栽培を10ha以上導入
- ・後継者の育成と人材確保

結果

- ・耕作道路82.4m、石積128㎡、排水路72mを整備
 - ・シートマルチ栽培を8haで導入
 - ・認定農業者、後継者も少なくな
- 今後は、みかんブランド化による後継者育成を図る。

今後に向けて

産地間競争を生き残る
ブランド化